

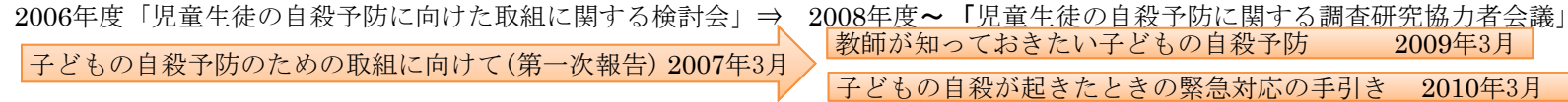
子供に伝えたい自殺予防

(学校における自殺予防教育導入の手引)

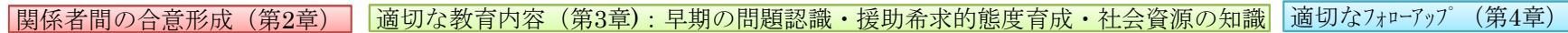
子供を直接対象とした自殺予防教育の目標・展開例とともに、実施前後の留意点等を具体的に提示し、学校が安全かつ効果的に子供を直接対象とした自殺予防教育を導入できるための道筋を示す。

第1章 子供の自殺予防に向けた取組に関する検討会の経緯と子供を直接対象とした自殺予防教育を実施する上での前提条件

子供の自殺予防に向けた取組に関する検討会の経緯



子供を直接対象とする自殺予防教育を実施する上での前提条件



第2章 関係者間の合意形成と準備

学校における合意形成
実施組織の構築・教員研修の実施

保護者との合意形成
保護者研修の実施
保護者の同意

関係機関の合意形成
日頃の協力関係
授業実施の協力依頼

学校における自殺予防教育プログラムの実施

第4章 プログラム実施前後の留意点

下地づくり (生命尊重・健康教育・人間関係作り)

学級集団レベル
学級集団のアセスメント
→結果に基づく配慮*

個人レベル
事前アンケート等
→結果に基づく配慮

自殺予防教育プログラムの実施

事後アンケートの実施

学校におけるフォローアップ

担任教師の個別面談 ⇒ スクールカウンセラーの面接

保護者への連絡・保護者との面接

地域の専門機関との連携

第3章 学校における自殺予防教育プログラムの展開例

中学校・高等学校における展開例

いのちの危機を乗り越えるために

- 自殺の実態を知る
- 心の危機のサインを考える
- 心身が不調な時の対応を知る

自殺予防のキャッチフレーズ

きづいて：危機に気付く
よりそい：友達に寄り添う
うけとめて：生きづらさを受け止める
しんらい：信頼できる大人に
つなげよう：つなげる

いのちの危機において
支え合うために

- よい聴き手となるには
- 身近で支えてくれるところ (援助機関)を知る

プログラムの目標

- 早期の問題認識 (心の健康)
- 援助希求的態度の育成

プログラムの特徴

- 価値の押しつけを避ける
←教員、生徒が共に考える
- グループワーク<参加型相互学習>を重視
←生徒間のつながりの効果
←命の危機への気付きや対応に取り組む意欲を高める効果
←子供自身の危機に際しての問題解決能力を高める効果

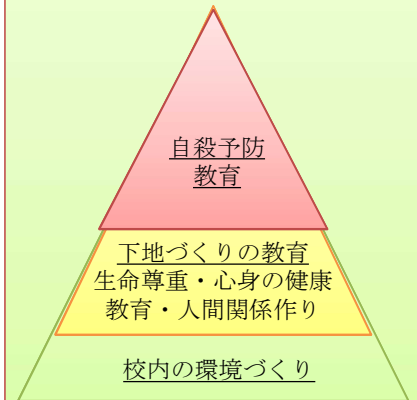
実施上の留意点

- 学校の実態に即した工夫
- 準備・実施段階での協働

参考：小学校における展開例

だれにでもこころが苦しい
ときがあるから

- こころのもやもやチェック
- こころのもやもや攻略法
- 話の聴き方を学習する
- 相談できる人、場所を知る



第5章 自殺予防に関するQ&A

子供の自殺や予防に関するQ&A

参考資料：教師のための研修の内容 授業スライドの例
授業実施前・実施後アンケート例 推薦図書